

■教育目的

現代における医療倫理の中心には、患者と医療者間の良好な意思疎通と情報提供がある。現代の医療倫理は患者の権利、とりわけ自己決定権を説いており、医療系以外の学生、一般の方々にも役立つことを理解する。誰もがいずれ患者となりえて、医療の世話になり、終末期を迎える。医療倫理の問題は他人ごとではなく、自分自身が将来直面せざるをえない課題であることを理解する。【卒業認定・学位授与の方針:SD-④】

■学習到達目標

1. ヒューマニズム(人間の尊厳)及びその根拠・理由を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
2. 医療倫理規範及び倫理学理論を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
3. 医薬品にかかわる開発職・研究職・営業職のプロフェッショナリズムを理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)

■準備学習(予習・復習)

予習：日頃から医療とその倫理に関連すると思われるニュースに注目し、可能ならば新聞紙を読む。(20分以上)

復習：授業の要点をチェックするとともに、気になった箇所を自分で調べてみる。(30分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	なぜ倫理が必要か	自己紹介、ルーブリック紹介、参考書紹介、最近の医療倫理関連ニュース例	
2	医療分野に関わる倫理原則	ヒポクラテスの誓いの意義と限界 患者の権利の保護	
3	生命倫理とは	非倫理的な研究への反省 生命倫理に関する諸原則、宣言	
4	生命倫理と個別課題① 終末期医療・生殖医療	終末期の医療介入、生命の誕生に伴う倫理	
5	生命倫理と個別課題② 脳死・臓器移植	脳死・臓器移植の倫理的ジレンマ	
6	生命倫理と個別課題③ 先進医療	情報科学の活用、先進医科学の医療実装と倫理	
7	倫理のホットイシュー ジェンダー・人種・文化	医科学におけるジェンダー・人種・文化の問題	
8	研究における倫理	研究不正とその防止、動物実験に関する倫理	
9	臨床研究における倫理	臨床研究に関わる者の多様な視座 医薬品開発における規制	
10	研究における倫理の最先端	ELSI、RRI	
11	薬害・医療事故	薬害がなぜ起きるか 医療人の責任	
12	医療分野の倫理に関する 法令・ルール	薬剤師や医療関係の倫理に関する法令・ルール	
13	ケーススタディ	事例を用いて、倫理的観点から検討し、判断してみる	
14	ケーススタディの振り返り	他者の判断の視点を意見交換し、理解を深める	
15	補遺		

■授業分担者

久保田 唯史 (No.1～15)

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：質問があれば個別に受けつけ、解説・説明をする。重要なものは質問者の名前を伏せ授業で取扱う可能性がある。

成績評価方法：期末試験(100%)で評価する。

■ 教科書

指定しません。